

地域に愛されて、50周年！



# 青南だより

平成29年夏休み号

港区立青南幼稚園  
園長 新山 裕之

## <スポーツを通して育てたいこと…>

最近、十代のスポーツ選手が脚光を浴び、小さい頃から毎日厳しい練習をしてきた映像をよく目にします。オリンピックで金メダルを取りたいと夢を語る姿は頼もしい限りです。しかし、競技に取り組む中で、社会で生きる人としての構えが身に付いていればこそ、価値あるメダルと言えます。その競技を愛し、もてる力を発揮することに集中でき、試合が終われば互いの健闘を称え合う選手を見ると、スポーツを通して心も育っていることが感じられ、清々しい気持ちになるものです。

## <愛着形成で心の根っこに栄養を>

先日、都の園長会で聞いた講演は、「心の根っこ」につながるいい内容でした。赤ちゃんが泣くと、お母さんは声を掛け、あやしたり抱っこしたりし、泣き声や表情から、おっぱいをあげたりオムツを替えたりします。この日々の繰り返しの中で、赤ちゃんは困ったときに身近な大人が助けてくれるという体験を声や表情や肌触りを介して体験していきます。これが愛着形成です。この当たり前のやり取りが足りないと、「心の栄養不足」となり、人との関係づくりが難しくなるというのです。

## <巣立ちのための地力<sup>じりき</sup>を付ける>

7月初旬の月曜日、例のツバメの巣が空になっていました。いよいよ巣立ちの時期を迎えたようです。くちばしの黄色かった雛が、わずか数週間で大人並みの体つきになり、空を飛ぶのですから、その生命力に驚かされます。幼稚園でも、一人一人が自立のための力を着実に身に付けてきています。夏休みは、家庭で子どもができる仕事を任せることで、家族の一員としての自覚と人の役に立つ喜びを感じられたらすてきです。焦らず継続していくことで、きっと地力が付くことでしょう。

### 青南の 二十四節気

・・・葉月（はづき）・・・

立秋（7日）…セミが鳴き、暑さはまだまだ続きます…

処暑（23日）…暑さも少し収まり、もうすぐ2学期…

年長児が畑のジャガイモを106個も収穫し、カレー会食を前に包丁で切る経験もしました。年中児はナスや枝豆を食べました。年少児はミニトマトをスープにして食べました。野菜が苦手という子が、自分たちで育てた野菜だと食べられた、といううれしい姿が今年もありました。自然とのかかわりを大切に、手間ひま掛けて作った料理の味は、一緒に食べた仲間の表情とともに、一生の記憶として舌が覚えていることでしょう。



並んで待つことができるようになった年少児



年中児は生涯学習館に笹飾りを届けました



みんなで一緒にスイカをいただきます！



収穫したジャガイモを並べて数えてみると…



大きくなったツバメの子。この数日後、巣立ったようです